

エクステリアを単に外から見るのではなく、建築と一体化して敷地全体をデザインしているのが建築家でありガーデンデザイナーでもあるアトリエ六曜舎の湯浅剛さんです。そこで、建築的な視点から庭と建物をつなぐものは何か、居心地よい自在空間はどうすればつくれるか、そのスタイルを語っていただきました。



道路に面した和室には、道からの視線を遮りながら外の風や緑を楽しめるように、縦格子を張りました(A様邸)



建物でL字に庭を囲み、デッキを設置。どの部屋からも庭が見えて、明るく広々とした開放感があります(K様邸/右の写真も)



トッライトから光と緑が降り注ぎ、戸外にいるようなサンルーム。庭木は落葉樹なので夏は日を遮り、冬は葉が落ちて日だまりをつくります。

光と風と緑、 建物に「外」を取り込む

湯浅 剛 <アトリエ六曜舎>

建物も庭もトータルにデザインしたくて イギリスでランドスケープを学ぶ

建築家は、このへんに大きな木があったらいいな...ということはあるんですが、それを何の木にしたらいいかとなると、結構わからない人が多い。建築事務所にいた僕がなぜイギリスにランドスケープを学びに行ったかという、住宅を設計していても、庭のことになると「ここはこんな感じの落葉樹で」程度のことしかわからなかったんです。こんなに知らなくていいのかな、というのが出発点にありました。

もともと、僕のなかには「建築は建築、庭は庭」ではなくて、「敷地全体をデザインする」という考え方が強かった、ということもありました。

イギリスに留学して戻ったら、ちょうど日本はガーデニングブームで、しばらくは庭関係の仕事が中心でした。ところが庭だけをやっていて、プランニングの面でも建物のデザイン面でもストレスがたまるんです。それで、現在ではエクステリア単体でなく、建築も庭も一体で請け負うようにしています。

ガーデニングブームがもたらしたものの 街並みとの調和をもっと考えて

ガーデニングブームの前と後では、庭づくりのシステム自体が変わってきていると思います。

ブーム以前は、それほど庭に目が向けられず、造園家の人たちが、お客様のニーズはあまり聞かずに「50万円で作ります」という感じで和の庭を中心につくっていて、多分お客様も納得していない部分があったのではないかと思います。

それがガーデニングブームになって、雑誌などからいろいろな情報が入ってきて、もっと違う庭がつけれるということがわかってきた。また、たとえばバンジューの鉢植えをたくさん並べたところで、単なる「園芸」だけではイギリスの庭にはならない。そういうことも少しずつわかってきました。

なので、ガーデンブームとか、イングリッシュガーデンの流行とかは、エクステリアというものを認識し、外に視野を広げるきっかけとしては非常に良かったと思います。

ただ、地中海風とかイギリス風とか、その「○○風」にはちょっ

と拒否反応があります。イギリスで実際に学んで悟ったのは、たとえばイギリス風というのは、イギリスでやるからいいのであって、日本でイングリッシュガーデンというのはどうなのでしょう。文化も気候も違えば、植栽も違う。日本なら日本に合ったアレンジをしたほうがいいのではないかと。

それに、外観がまわりの家並みから浮いてしまっていてはよくないですね。個性は大事ですが、突出するのはいいことではない。街並みとしての「調和」や「バランス」が大事です。

イギリスで学んだランドスケープというのは、ただ庭だけでなく、街並みや環境まで含めたカテゴリーでした。そういう広い視野をもってデザインしていく必要があると思います。

建物で囲んだ中庭をつくれば プライバシーを保ちながら開放感を味わえる

建築サイドの話になりますが、僕はできるだけ外の自然を取り込んだ建物をつくりたいと思っています。光や風が入り、庭の緑を感じられる住まいは、四季の変化を感じたり気持ちを癒してくれる

など、いろいろとメリットがありますし、なんといっても住み心地がいいですから。

この「外を取り込む」という概念をカタチにするために、現実的には、たとえば建物をL字やコの字型などにして、くぼみに中庭をつくるという方法をよくとります。

建築から考えると、中庭というのは非常に室内とのつながりのいい空間です。部屋から庭が見えるだけでなく、庭を介して他の部屋も見え、そこにいる家族の気配も感じられる。窓を開ければより密接なつながりを感じることが出来ます。

また、掃き出しの大きい窓などをつければ、室内が実際よりはるかに広く開放的に見えるのも大きなメリットです。そのくせ、半ば閉じられた空間なので、プライバシーも守れます。

たとえばK様邸(上の写真)。道路に面した北側の建物は、防犯上もプライバシーの面からも閉鎖的になっています。その分南側の一角に庭を広めに取り、お施主様の「家のどこからも庭を眺めたい」というご希望に添って建物をL字に構成。リビングから、ダイニングから、サンルームから、すべての部屋から庭が見られるようになっているのです。